

H24.9.8

さまざまなお礼のカタチ



長尾和宏（ながお・かずひろ） 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。関西国際大学客員教授。54歳。ブログ(<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/>)が好評。



「医者の本音」シリーズ①

「医者の本音」シリーズで、他では書いていないことを書きます。第1回のテーマは「医者への謝礼」です。

「入院や手術でお世話になる病院のお医者さんへの謝礼はどうすればいいのか？」これまで何度も志からない質問です。たしかにこれまで何度も志を預ける医者に少しでも志を伝えたいと思うのは自然なことでしょう。しかし公立病院の場合、医者を含めて職員は公務員ですから、個人的な

医者への謝礼は必要か

ら診療報酬という形で、いわば法定謝礼を受け取る形になつたのです。ですから国民皆保険制度下では、個人的な謝礼はまったく必要ありません。

とはいっても、お世話になつた個人的に何かお礼をしたいのは人間の本能かもしません。病院の先生にお礼する方法やお礼の品、お金ならしく包めばいいのか、よく相談されます。冠婚葬祭の相場は

贈り物を受け取ることは固く禁じられています。たとえ郵送しても事務の方が機械的に返送します。詰め所にいる看護師さんも受け取れません。勤務医の時、横で見ていて生ものだとモッタイない、送った人の気持ちを想像するとかわいそうだな、とも感じましたが、公務員規定ですのでどうすることもでき

ません。民間医療機関は特に取り決めはありません。昔の名医「赤ひげ」は大金持ちからは謝礼を取りませんでした。田舎だと取れたての野菜を持ってきて、まるで物々交換のような謝礼が普通でした。私は本来、医療とはそのように原始的な物々交換的なものだ

と思います。

あまり知られていないようですが、医療はけつして嘗利

を目的とはしていません。し

かし約50年前に国民皆保険制度ができてから、少しづつが

一方、開業医になつたら患

者さんから謝礼をもらうこと

になりました。患者さんは保

険料を納め、医者は保険者か

どこの本に書いてあって

は気持ちなのです。医者も

も、この質問への答えはどこ

「もっと頑張ろう」という気

にも書いていません。実はこ

になります。

の相談がいちばん困ります。

患者さんやご家族から頂い

た手紙を、私はいつまでも保

存しています。宝物であると

同時に自分自身の評価です。

医の道を志し、医業を営む身

になり、これほどの賜り物は

なりません。

手紙以外で最もうれしかったのは「ネバールの剣」で

す。昔、重い心臓病のネバ

ルの子供の術前検査の主治医

になつたことがあります。

手術が無事終わり、元気にネ

バールに帰国して1年半ぐら

いたった頃、小包が届きました。

中に小さな剣が入っていました。

剣の表面には「長尾

先生に心から感謝します」と

英語で彫られていました。お

父さんが1年以上かけて立派

な剣を彫ったのです。今も一

生の宝物として部屋に飾って

います。